

令和3年度 学校関係者評価委員会 議事録

【日時】令和3年7月15日（木）10：40～11：20

【場所】こころ医療福祉専門学校壱岐校

【委員】壱岐市社会福祉協議会副会長 品川 洋毅
壱岐市立老人ホーム所長 末永 文武
社会福祉法人博愛会特別
養護老人ホームハッピーヒルズ（幸せの丘）
施設長 永田 信弘

【事務局】後藤久志、田島百合子、中原正和

【総評】

- 壱岐市内唯一の介護人材養成機関として大きな役割を果たしている。コロナ禍にあって、介護に関心を持つ学生の確保に努めてほしい。
- 留学生にとっては、介護の関する知識と日本語の修得の両方を行わないといけないが、学生達の実習現場での積極的に学習する姿に感心している。
- この学校をもっと市民に知ってもらえるように、広報活動を工夫する。

（1）教育理念・目標

事務局：岩永学園の教育理念を具現化するために、「傍らに人あり」の精神のもとに、介護の専門職としての知識・技能を指導するとともに、それを施すための「こころ」を育成してきた。全学生の国家試験合格が最大の目標であるが、留学生については難しい面がある。そのような中で、日々の頑張りによって2名の留学生が国家試験に合格したことは大きな成果であった。

委員：人材確保のためにどのような具体策を持っておかなければならないかを明確にしておく必要がある。（広報活動やオープンキャンパス等）

（2）学校運営

事務局：岩永グループの目的実現のために策定された方針に基づき、運営を行っている。2年間の授業を通じて介護についての専門的な知識を身に付けさせるとともに、全学生の国家試験合格を目標に指導を行ってきた。教育活動等に関する情報については、ホームページに公開をしている。入学希望者が得たい情報を安易に取得できるような情報公開のあり方について模索しながら実践している。

委員：市内の情報ネットワークを上手く活用しながら、本校のことを多く

の人に知ってもらえるように広報活動を工夫してほしい。

(3) 教育活動

事務局：教育理念に沿った教育課程の編成、業界のニーズを踏まえた教育達成レベルや時数の確保を行っている。また、法規に基づいた体系的なカリキュラム編成を行い、職業教育の視点に立った教育方法の工夫や開発を行っている。習得した技能について、実践的な能力を身に付けさせるため、市内の関連施設の協力を得て、施設実習を行っている。年2回の教育課程編成委員会の評価を受けPDCEAのサイクルによる実践を行っている。評価についても、学則や各種規定に基づき評価基準を明確にして行っている。教員については、適切な資格を有し、今までの実務経験、関連業界との連携による研鑽に努め、指導力の向上を図っている。留学生の国家試験合格に向けた指導法の工夫が求められる。

委員：留学生が、将来日本で仕事を続けていく上で、介護福祉士としての知識や技能の習得はもちろんであるが、この仕事はいかに相手とコミュニケーションがとれるかということが大切である。留学生の日本語のスキルアップを目指すことはとても大切であるし、現場の願いである。

事務局：学校現場でも同じように感じている。グループとしても色々な工夫を行いながら留学生の日本語力の向上に取り組んでいるところである。

(4) 学修成果

事務局：国家試験の合格率向上に向けて教職員・学生が一丸となって一生懸命頑張っている。日頃から国家試験への意識付けを行っている。最終的には教員の指導と学生の意欲にかかっている。特に学生本人が意欲をもって国家試験対策に取り組むことが大変重要である。昨年度は、日本人学生全員の合格に加え、留学生2人が合格することができた。このことを今後の留学生の学習意欲向上につなげるように指導していく。

委員：国家試験の不合格者はどのようになるのか？

事務局：現段階では、国家試験未受験者・不合格者は5年限定の介護福祉士資格が得られ、その期間中介護福祉士としての業務に従事することで無期限の介護福祉士資格が得られる。この制度を利用して留学生が介護福祉士として業務に従事できることは、留学生本人・介護従事者が不足している現在の日本社会にとって大変ありがたいことだが、日本語でのコミュニケーションが十分に取れることがとても大切である。国家資格を得て日本での業務に従事する以上、相応の国語力を身に付ける義務が生じるし、送り出す側も十分に日本語教育を行わなければならないと常に感じている。

事務局：介護福祉士の資格を得ると取得可能な在留資格「介護」での日本在留の条件は技能実習生と比較すると格段に良い。家族にも在留資格が与えられるし、在留期間の更新も可能。それだけ社会から期待されている役割、責任が重いということだと認識している。それを学生本人が自覚し、真摯に学ぶ環境を構築していきたい。教員側も授業内容の充実、指導方法等互いに研鑽を積み、研修を深め指導力の向上に努める。

(5) 学生支援

事務局：新型コロナウイルス感染予防の観点から、あらゆる活動に制限を設ける必要があった。校内の衛生管理体制を見直し、感染予防対策を徹底するとによって、さまざまな感染症や疾病、けがの防止など、昨年の課題であった自己の健康管理や衛生管理に対する意識の高まりがみられるようになった。留学生は異国での生活を行う上で、通院等の不安がある中、職員が親身になって対応することができた。今後も自己の健康管理や身の回りの衛生管理等に対して、高い意識を持って生活できるように指導していく。

委員：母国の習慣で健康管理の意識を変えさせる必要があるのではないかと。

委員：健康保険の問題で、母国では受診できないものも日本のように皆保険制度が実施されていることで治療が受けられるというありがたみも感じていると思う。

事務局：健康・衛生面だけではなく、日本（壱岐）で安全・安心に生活することができるように壱岐警察署、地元の駐在所、壱岐消防署の協力を得て、防犯講和や避難訓練、救命講習等を行い意識向上に努めている。

委員：あらゆる機関を通じて、生活しているところの決まりやしきたりを理解することは、地域の人々との関係をスムーズにするためにも大切である。自分の身を自分で守るということにもつながる。日本の治安のよさや温かさに気づくはずである。感謝の気持ちにも育ってくる。

事務局：学生への経済的支援は県・市・連携施設との相互連携により十分な体制を構築している。また、学業を離れた、アルバイト先においても温かい見守りと支援をいただいている。

委員：開校当初のころに比べて、市民も留学生のことを理解しているし応援している。それは、今まで留学生がまじめに生活してきた証でもある。もちろん日本人学生もまじめに頑張っている。

(6) 教育環境

事務局：施設設備については、少しずつではあるが、必要に応じて整備を、行っている。校舎周りの環境についても壱岐市教育委員会に相談をしながら、

木の伐採や危険物、不要物の撤去等を行っている。本校の学生の安全確保に合わせて近隣校である鯨伏小学校の児童生徒にも迷惑がかからないように相談しながら整備を行っている。校内の実習施設等においても、このコロナ禍に対応できるように整備している。昨年度はコロナのために実習が校内に変更されたので、それにも対応できるように整備を行っている。学生・職員の安全区補についても、防災訓練等を計画的に実施し、意識を高めている。

委員：体育館が解体され周辺が明るくなるとともに、大きな木も伐採されて校舎周りがすっきりした。コロナで活動が変更になり大変だろうが、臨機応変に対応してほしい。

事務局：入学者全員卒業させるために、常に目を配り、必要に応じて適切な支援を行うことで退学者を出さないように努力している。

(7) 学生の受け入れ募集

事務局：県の専修学校各種学校連合会での取り決めにしたが、出願、入学試験は適正に行っている。学生募集活動において卒業生の就職率、国家試験の合格率、介護実習の成果等を正確に伝えている。新型コロナウイルス感染症の拡大により、人と接することの多い介護現場で働くことに対し、敬遠することが危惧される。併せて留学生の入国等にも制限がかかると、学生の確保が難しくなる。そのことを十分に考慮した募集の強化が喫緊の課題である。

委員：先ほども話が出たが、留学生はともかく、壱岐市の高校生をいかに呼び込むかがポイントである。市内のネットワークの活用、オープンキャンパス開催時期や対象者等の工夫をしていただき、壱岐市で働く若者確保のためにも頑張してほしい。

事務局：次年度については、高校生だけではなく、保護者や壱岐に U ターンを考えている社会人等にも目を向け、多様な媒体を用いて積極的な学生募集を行いたい。学生募集の時期、回数、対象者等についてもしっかりと吟味し関連施設等と連携しながら進めていく。昨年話題に出た壱岐ビジョンの活用についても、積極的に取り組みたい。

(8) 財務

事務局：少子高齢化の中にあって、グループ全体として、入学者数の確保のための学科等の教育内容の刷新を行うとともに、経費の圧縮等を行い、予算財務基盤の安定を図っている。予算・収支計画については、適切な管理を行うとともに、適時監査を実施し、適正な運用がなされている。財務情報についてはホームページでも公開している。

(9) 法令等の遵守

事務局：学校教育法、養成施設指定規則等の方に従った適正な運営を行っている。個人情報保護等についてもセキュリティを万全に行い対応している。自己評価の実施については全職員・学生を対象に行い、学校評価委員会で、評価・改善を行っている。その結果についてもホームページで公開している。

(10) 社会貢献・地域貢献

事務局：学生のボランティア活動、学校施設の開放、地域の介護事業所職員向けの国家試験対策講座等を計画し地域の人材育成等を行ってきたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、大きく制限が課せられることになった。感染症対策を十分に行った上で、地域の清掃ボランティアは継続して行うようにしている。

委員：地域住民とのコミュニケーションを取る上においても、地域の行事に積極的に参加することは若者が少ない地域にとっても大変ありがたい。このようなボランティア活動で培われた精神が介護職にも生かされると思う。

(11) 国際交流

事務局：留学生の受け入れについてはグループ内の連携をもって積極的に行っている。留学生の在籍管理については、法に従い適切に行っている。職員も在留申請等取次者としての研修を受講し、留学生の積極的な支援に努めている。留学生担当職員を配置し、生活指導や日本語補習授業を行っている。コロナ禍にあって、地元住民や学生達との交流がなかなかできない状況にある。留学生は、英語を話せるものが多いので、落ち着けば地元住民との交流を行うことができると思う。

委員：アルバイトも大変まじめに行っている。コロナさえ落ち着けばよいのにとっても残念である。新型コロナウイルス感染症が落ち着いて交流が積極的に行えるようになることを望んでいる。

事務局：本日はお忙しい中貴重なご意見をたくさんいただき感謝している。明確になった問題点については、具体的な方策を立て改善していきたい。留学生にとっても日本人学生、職員にとってもこの地域で学んでいることは多い。留学生には、この地域でうまく生活していけるように、文化や習慣等について理解させたい。壱岐市の良いところを感じながら、その学びを現場で活かせるように指導したい。地域の皆様にも積極的にかかわっていただき、学校で学べないものを学ばせてほしい。本日はありがとうございました。

